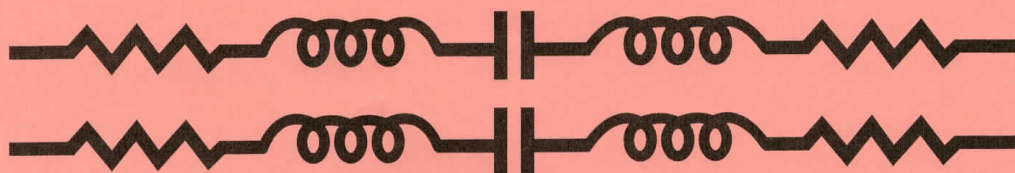


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 62 号

2016 年 3 月 発行



目 次

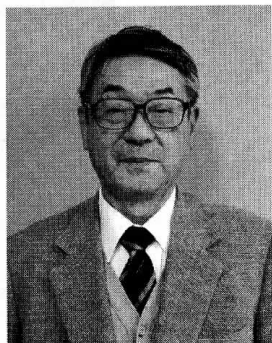
会長挨拶	会長 旗福 寛	1
電気電子工学コースの近況	電気電子工学コース長 高木 浩一	2
情報システム工学コースの近況	情報システム工学コース長 今野 晃市	3
平成27年度総会特別講演		
国際リニアコライダーの概要	成田 晋也	4
東京支部からの寄稿		
次の世代に繋いでいきたい	遠藤 慎介	6
ネット社会になって	狩野 利之	7
SNSを利用した支部活動の広報		
～その目論見と将来展望 妄想編～	中山 靖茂	8
仕事を楽しもう	梁 春青	9
草刈賞 第12回（平成26年度）草刈賞受賞者		10
《支部だより》平成27年度東京支部報告	田中 健二	11
平成27年度仙台支部報告	佐々木良治	12
平成27年度盛岡支部報告	久保田賢二	13
平成27年度岩手大学電気電子情報科会総会		14
平成27年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録		15
平成26年度決算書		16
平成27年度予算書		16
平成27年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		17
特別寄稿		
美しい国日本	伊藤 稜威	18
70年前の思い出と いま思うこと	太田 圭一	20
総会添付資料		22
平成27年度電気電子・情報システム工学科の構成員名簿		24
平成27年 年表		25
岩手大学電気電子情報科会会則		27
トピックス・編集後記		28
創立75周年並びに平成28年度総会のご案内		裏紙

佐藤 淳 先生(岩手大学電気電子情報科会顧問) ご逝去のお知らせ

平成 28 年 1 月 6 日 佐藤淳先生が肺炎のためにお亡くなりになりました。89歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

ご 挨拶

会長 旗 福 寛（昭和38年電気卒）



岩手大学電気電子情報科会会員のみなさまにはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。ここに会誌「きたかみ 62 号」をお届けできることを嬉しく思います。

報道されておりますように母校、岩手大学は平成 28 年 4 月に改組され、これまでの工学部電気電子・情報システム工学科は理工学部システム創成工学科の二つのコース、電気電子通信コースと知能・メディア情報コースになるということです。この二つのコースに入学する学生の皆さんにも電気電子情報科会に入会いただき、社会人として卒業後も本科会の発展に尽力いただきたいと思います。お願いする次第です。

さて、平成 23 年（2011）3 月 11 日東日本大震災が発生しました。この年の 10 月、東京市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷」において当科会創設 70 周年の記念式典を行いました。震災の被害があまりにも大きく、式典の開催が心配されましたが東京支部の皆さんのご尽力によって見事な記念式典となりました。式典の目的の一つは創設以来本科会の発展にご功績のあった方々を顕彰することでありました。この式典の様子は 2012 年 3 月発行の本会誌第 58 号に特集されてあります。寺井正行祝賀会実行委員長は式典を振り返り会誌第 59 号に「今後は 5 年あるいは 10 年ごとの周年記念行事を恒例化しておく必要がある」という提言をされております。来年 1 月 1 日は本科会創立 75 周年に当たりますので寺井委員長の提言を受けて、本年平成 28 年 6 月 18 日の総会では 70 周年の後に該当されることになられた功労者の方々を表彰したいと考えておりますので会員多数の御出席をお願いいたします。

平成 27 年は戦後 70 年を経過しました。ここ数年、戦争を繰り返すことのないようにいろいろな行事や提言がありました。本会誌では昭和 24 年卒業（専門 8 回）の太田圭一様に戦前、戦中、戦後の体験について御投稿をお願い致しました。戦争を知らない世代の皆様には理解が難しい個所があるかと思いますが是非ご一読下さい。

また、この 62 号編集集中に本会顧問佐藤淳先生逝去の報に接しました。先生の御業績や思い出を特集すべきところではありますがあまりにも突然のことで、本号には間に合いませんでした。

最後になりましたが会誌発行等の科会事業遂行のため、また母校の発展を側面から支援するためにも別紙の「10 年会費納入のお願い」をお読み下さい。未納の方には郵便振替用紙を会誌に同封してありますので納入方お願い致します。

会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。

電気電子工学コースの近況

電気電子・情報システム工学科 電気電子工学コース長 高 木 浩 一

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より学科の運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。電気電子・情報システム工学科は、平成 21 年度に、それまでの電気電子工学科と情報システム工学科を再編して誕生しました。このたびの改組で、次年度平成 28 年 4 月から、理工学部システム創成工学科の電気電子通信コースおよび知能・メディア情報コースとして新入生を迎えます。ここでは電気電子工学コースの近況として、学生さんの進路、改組による研究・教育の変化、教職員の異動について、ご紹介いたします。

新学科として、平成 25 年 3 月に初めての卒業生を、また平成 27 年 3 月には 3 期生を送り出しました。本コースではそのうち、7 割弱が大学院へ進学しています。大学院在籍は、M2 が 40 名、M1 が 44 名（学部コース定員 60 名）となっています。就職は、今年は後ろ倒し（説明会解禁：12→3 月、採用選考開始：4→8 月）で採用スケジュールは変わりましたが、おおよそ例年同様に、大学院修了生を中心に多くの学生が、早い時期に、大手企業より内々定をいただいています。本コースの求人数は約 400 社で、求人数を就職希望者数約 60 人（学士+修士）で除した実質求人倍率は 6.7 倍となります。改組の調査として学部で行った企業アンケートでも、25%の企業から、求人では電気電子通信コースの学生を希望する旨の回答がありました。改組後のコースで最も高い数値となっていて、社会からのニーズの高さが伺えます。

このように、当学科の卒業生は、社会から大きく期待される存在なのですが、社会がグローバル化しており、海外の競合企業との競争や、連携を通じた共創に対応できる人材育成が急務となっています。また環境やエネルギー問題、通信インフラおよび技術の飛躍的な発展と普及、また医療や福祉、防災の観点からアンビエント社会が加速的に進んでおり、広い視野（ジェネラリスト）と、高度な専門技術（プロフェッショナル）を兼ね備えた人材が要求されつつあります。このような社会環境の変化と社会的要請



図1 コース輩出人材の支える社会と研究教育テーマ

を踏まえ、本コースでは、1) 低年次教育における専門深化、2) 高年次における分野横断型学習および PBL (Problem Based Learning: 問題解決型授業) を用いた課題設定・解決力の付与に取り組んでいます。本コース卒業生の支える社会像などを図 1 に示します。

教員の異動等をご紹介致します。学科のニューフェースとして、秋山雅裕准教授が 4 月に、高橋克幸助教が 5 月に、それぞれ、鹿児島大学およびシンド静電気(株)から着任されました。ご専門は、それぞれ電磁エネルギー変換工学および高電圧・静電気工学です。また、小林宏一郎准教授が 6 月に教授へ昇任されました。それらを含めて、現在本コースは教授 6 名、准教授 4 名、助教 4 名での運用となっております。現在、改組後の教育・研究に支障をきたさないように、複数の教員公募を行っております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致しますと共に、今後とも変わらぬご支援を、宜しくお願い申し上げます。

情報システム工学コースの近況

電気電子・情報システム工学科 情報システム工学コース長 今 野 晃 市

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々清栄のこととお慶び申し上げます。平成27年度の本コースの近況をお届けします。

今年の4月に、昨年度改修工事を行っていた工学部4号館東棟が、総合教育研究棟（情報系）として落成しました。落成を記念した落成記念式典（特別講演会、見学会、祝賀会）を5月16日（土）に行いました。特別講演会には、カーネギーメロン大学の金出武雄教授をお招きし、「『計算機の日』の技術：歴史と今後の展望」についてご講演いただきました。見学会では、ICT プログラミング演習室、遠隔プロジェクト学習室などを見学していただき、新たに導入した遠隔会議システムのデモを行いました。祝賀会には、学内外から60名強の方々にご参加いただきました。お忙しいところ落成記念式典にご参加いただきました皆様には、深く感謝いたします。

今年度は、岩手大学教員海外派遣事業に3名の教員が応募し採択されました。岩手大学教員海外派遣事業は、教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成することが目的です。3名の内訳ですが、明石卓也准教授、盧忻助教、山中克久助教です。明石卓也准教授は米国のカリフォルニア工科大学、盧忻助教はカナダのアルバータ大学、山中克久助教はカナダのサスカチュワン大学において、それぞれ3ヶ月間研修しました。今後、特に大学院は英語による講義も求められますので、3名の先生方には期待がかかります。

研究面においては、学生を中心とした研究発表等に関して、以下のような多くの受賞がありました。学会名、受賞名、受賞者、研究題目などを以下に示します。

- [1] 情報処理学会全国大会学生奨励賞、沼倉彬雄、加藤成将、佐藤和幸、富澤武弥、三好扶、明石卓也、金天海、力学系学習木を用いた小型船舶の外乱推定、(2015, 3)。
- [2] 情報処理学会全国大会学生奨励賞、沼倉彬雄、加藤成将、佐藤和幸、富澤武弥、三好扶、明石卓也、金天海、力学系学習木-連続力学

系の階層型学習-、(2015, 3)。

- [3] 芸術科学会主催 NICOGRAPH 2015 優秀論文賞 (Conference Track)、Zepeng Wang, Katsutsugu Matsuyama and Kouichi Konno, Unfolding a Point Cloud on Relic's Surface for Surface Pattern Visualization, (2015,11)。
- [4] 芸術科学会主催 NICOGRAPH 2015 優秀論文賞 (Journal Track)、Takahiro Daimon, Tadahiro Fujimoto, Interactive Video Editing for Occluded Object Using Synthetic Aperture Imaging, (2015, 11)。
- [5] 芸術科学会論文誌 論文賞、千田あゆみ、松山克胤、千葉史、今野晃市、接合資料作成のための計測点群による高速な隣接剥離面探索手法、(2015, 11)。

国際交流も活発に行われました。研究高度化・グローバル化特別対策室の支援により、本コースの教員が中心となってタイとモンゴルとの交流を実施しました。吉森久准教授と金天海准教授は、タイのチュラロンコン大学、キングモンクット大学等を訪問しました。今野と、松山克胤助教は、モンゴルのモンゴル国立大、モンゴル科学技術大、人文大を訪問しました。また、木村彰男准教授は、JASSO 主催の日本留学フェア in モンゴル・ウランバートルへ参加しました。タイ、モンゴルともに重点的に交流する必要がある国ですので、今後の留学生受入も積極的に進めていく予定です。

人事では、情報システム工学コースの千葉則茂教授が今年度を持ちまして定年退職されます。また、西谷泰昭元学長代行が教授として本コースに復帰されました。さらに木村彰男講師が4月に准教授へ昇任されました。

最後に、来年度、工学部は理工学部と改組されます。本コースは、システム創成工学科知能・メディア情報コースとなりますが、社会の要請に応えられるコースとして、教職員一同なお一層の努力をしていく所存です。つきましては、会員の皆様には益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国際リニアコライダーの概要

岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科

成 田 晋 也

1 国際リニアコライダーの目指すもの

古代から人は、「身の回りのものはなんでできているのだろうか?」「宇宙はどうやってできたのだろうか?」「我々はどこから来て、どこに向かっているのだろうか」という疑問に対する答えを求めて思索と実験を重ねてきました。それは20世紀になって素粒子物理学という学問として発展し、最先端技術を駆使した研究が続けられています。

素粒子物理学分野の実験では、一般に、高エネルギー粒子の衝突反応によって発生する粒子を捕らえることで、その反応を精密に調べるという方法がとられます。超高エネルギー状態を作り出すことで、宇宙初期の状態・極小スケールの世界を再現し、宇宙の成り立ちや物質の形成過程を調べることができます。そのような実験において、粒子にエネルギーを与える装置が加速器と呼ばれるものです。

これまでの研究から、宇宙のあらゆる物質やそこでの現象は、物質を構成する粒子（クォークとレプトン）、力を媒介する粒子（ゲージ粒子）、質量を与える粒子（ヒッグス粒子）によってほぼ説明できることがわかっています。一方で、宇宙に存在するとされる暗黒物質や隠された次元の探索など、宇宙の成り立ちを理解する上で重要な未解決課題が残っており、今後これまでに以上に高度で精密な研究が必要となっているのです。そのための究極の実験が、国際リニアコライダー（ILC: International Linear Collider）計画です。

2 国際リニアコライダーの概要

ILCは全長30-50kmの地下トンネルに設置す

る直線型加速器で電子と陽電子（電子の反粒子）を超高エネルギーで衝突させ、宇宙の始まりから10兆分の1秒の世界を再現し、そこでの素粒子反応を調べる装置です。

加速器は電気エネルギーを粒子の運動エネルギーに変える装置であり、ILCでは、超伝導加速空洞と呼ばれる装置を用いて1mあたり3千万ボルトという強力な電場を与えて加速し、最終的には電子・陽電子にそれぞれ2500億電子ボルトのエネルギーを与えます。加速された電子・陽電子は10億分の1メートルのオーダーの固まり（バンチ）となり衝突します。粒子の衝突点には、反応によって発生する粒子をもなく捕らえ、その飛跡やエネルギー、種類を同定する大型測定器が配置されます。

現在、このILCの建設候補地となっているのが北上山地です。ILC建設にはいくつかの条件がありますが、その最も重要なものの一つとして、50kmの直線トンネルが掘れる安定した岩盤の必要性が挙げられます。北上山地は、安定な花崗岩帯が広く分布したなだらかな山々が連なり、まさにその条件に合致した条件を有しています。また、加速器建設・運用のための様々な条件（加速器運転のための電力供給、人や資材の移動・輸送手段の確保など）も満たしており、さらには、世界中から集まる研究者の生活のための社会基盤（住居、交通網、公共施設、商業施設など）も既に周辺都市に整備されており、今後、ソフト面を含めそれらを充実させていくことで、様々な国の人が暮らしやすい生活環境を提供できるようになります。

ILCは世界唯一の超巨大科学プロジェクトであり、その誘致にあたっては、国家レベルでの

慎重な議論が必要となります。現在、文部科学省は、有識者会議を設置し、ILCの学術的意義、経費の全容と国際分担、人材確保など、さまざまな観点からILC誘致の是非を慎重に検討しています。それら検討結果を受け、今後1～2年の間に国は一定の方針を示すこととなります。誘致が正式決定した場合には、トンネル掘削、機器の設置などを経て、2020年代後半に実験が開始される予定です。

3 岩手大学におけるILCへの取り組み

現在、岩手県・東北地域においてはILCの誘致活動や建設のための準備を、地元自治体、産業界、学術機関等が連携して進めています。特に岩手大学は、地域の学術的拠点として、ILC計画推進においてきわめて重要な役割を担っています。平成25年2月に、学長を代表とする「ILC推進会議」が設立され、自治体や経済団体等と連携した広報活動や、ILCに関連した研究活動などを組織的に推進する体制ができました。また、平成26年4月には、工学部ソフトパス工学総合研究センターに「加速器科学研究グループ」が立ち上がり、ILCを含む加速器科学分野に関わる学内研究者が密接に連携することで、岩手大学における関連分野の研究の活発化を図っています。

筆者の研究室では素粒子実験用の測定器開発を行っています。その中には、ILC計画で用いる測定器の基礎研究も含まれています。なお、ILC計画の他に、当研究室では、加速器で生成したニュートリノを1000 km以上離れた標的測定器に入射し、そこでの反応を調べることで、素粒子ニュートリノの性質解明を目指す国際共同実験にも参加しており、ニュートリノ反応をとらえる液体アルゴン三次元飛跡測定器の開発において、共同研究の中で重要な役割を担っています。

4 ILC計画と未来の岩手

ILC加速器は、その加速性能、電子・陽電子ビームの品質など、いずれにおいても世界最高性能が求められるため、その開発によって得られる知見は、医療、生命科学、エネルギー、極限計測分野などで用いられる実用加速器の高度化にも直結します。さらに、ILCの建設・運用には、トンネル工事に関わる地盤・地質の科学、巨大地下施設建設、加速器・測定器に含まれる最先端エレクトロニクス、運用時に大量に取得されるデータの高速通信・高速処理技術など、極めて多岐に渡る最先端科学技術分野が関わっています。このことから、ILC計画の推進によって、関連する多くの分野の発展が期待されます。それだけでなく、その中から生まれる新たな技術シーズから、思いがけない産業の創出も見込まれます。さらに、世界各国から多くの研究者やその家族が岩手に居住することになれば、国際研究都市として、これまでにない新たな地方の姿が実現し、それが地域創生の大きなきっかけになることも期待されます。

ILCは、宇宙創成の謎という古代からの人類の疑問に答えを与える夢に満ちた実験であると同時に、これからの岩手、東北の未来を拓くきっかけとなることは間違いありません。多くの人の御理解を得ながら、是非ともILCを実現させたいと考えています。ご協力よろしくお願いします。

参考資料等

- ・東北ILC推進協議会
<http://www.tohoku-ilc.jp/>
- ・岩手大学ソフトパス工学総合研究センター
<http://www.sperc.eng.iwate-u.ac.jp/>

－東京支部からの寄稿－

次の世代に繋いでいきたい

遠 藤 慎 介（平成4年電子卒）



私が大学生の時、学科担任として馬場守先生にお世話になりました。また4年の研究室は電子応用研究室で齊藤弘先生にご指導を頂きました。研究テーマは銅蒸気レーザーの高効率化というもので、物性工学、レーザー技術に

頭を悩ましたものでした。学問だけでなく、実験機材の準備として計測器の設定調整や機械加工、パソコン環境の構築など様々なことを学び、就職してから大いに役立ちました（当時はWindowsも無く、フロッピーディスクでDOSを立ち上げて初期設定していた時代です）。また、同僚寮に入寮していて、そこではお酒の飲み方に始まり集団生活や上下関係でのコミュニケーションなど大変多くのことを学び、その後の私の人生に大きな影響をおよぼしています。

就職はレーザーを離れ、産業機械メーカーに入社し制御機器の開発に携わりました。分野は異なりましたが、大学で学んだことが基礎となっていて、改めて教科書を読み返すことも何度もありました。現在は、大型冷凍機の制御装置を開発しております。家庭では子供が高校生と中学生となり、手のかかる時期を過ぎて一段落した所です。

大学との関わりは、卒業後はほとんど無かったのですが、東京支部の事務局をしていた同期の誘いがきっかけで、支部大会に1、2度出席していましたが、昨年より東京支部の事務局として活動するようになりました。事務局メンバーの中では一番若手で諸先輩方より支部の運営や科会について学びつつ活動を進めています。年に一度の支部大会では、特別講演として大学の先生の講演や学校の近況を聞くことができ、た

だ懐かしいだけでなく、日々の会社生活の中で利益追求に偏りがちとなっている状況から、技術を追究することの大切さということを改めて思い出させてもらい、有り難く思っています。

東京支部の活動では60代、70代の大先輩のパワーがすごく、少し縮こまっている自分に気付かされることもあり、職場での人間関係とはまた違うものを学ばせてもらっています。しかし、その下の世代が続いておらず、世話役の人のみといった状況です。少し話は逸れますが、自分の子供達の部活動の応援などで学校の活動に関わることがあります。そこで、部活のOBが現役生のサポートを行っていることに驚かされます。面白いことにそこでも60代、70代の方のパワーがすごいのですが、50代以下の世代もきちんと続いています。

昨年10月の東京支部大会でご来賓として出席された科会会長の旗福先生より改めて科会の目的についてのお話があり、親睦を図ると共に電気・電子・情報工学に関する知識の交換をするというもので、ただのOBの親睦だけでなく、現役学生も含めて知識を交換するというコミュニケーションも含まれていたことを知りました（本誌きたかみにも会則として掲載されていると思います）。現在はメールやSNSで手軽に新しいネットワークを広げることが出来るので、敢えて過去のつながりを求める必要はないという考えもありますが、多感な時期に岩手大学で過ごした人達の価値観や繋がりというのも一つの切り口としてあって良いと思います。

自分が東京支部の活動をしていく中で、WebやSNSなどのメディアを活用して、興味の内容を提供しながら、活動を若い世代そして現役生まで繋げていけるよう、微力ながらお手伝いできればと思っています。

ネット社会になって

狩 野 利 之（昭和 61 年電子卒）



十数年前から毎週土日、休日などは地域の小学校の少年野球チームのコーチをしている。息子がお世話になっていて、自分も高校で野球をやっていたことから練習を手伝いに行ったのがきっかけで、それ以来ずっと続けている。53 歳になって運動不足解消など健康のためにも、毎週身体を動かすことは気持ちがいい。

始めた当時、コーチや選手の父母の間の練習日程の連絡などは、電話だった。昔ながらの「連絡網」である。ところが今は、スマートフォンなどの機器を用いて、グループメールやブログなどのネットサービスを利用するなどして様々な情報をやり取りする形になった。家では光、外ではモバイル端末というのがかなり一般的になり、ちょっと大袈裟だが、世の中が変わったことを実感している。

自分は、大学を出た後、通信会社に入社し、数年は電話交換機の運用やその開発に従事していたが、その後インターネットの普及に長く関わることになり、1990 年代前半、それまで主に大学や研究機関で利用されていたインターネットを一般ユーザに提供するため、サービスプロバイダの立ち上げや定額の回線サービスの開発の担当となった。

当時のインターネット接続はパソコン通信の延長線上で、電話回線にモデムをつないだダイヤルアップ接続。その後、一定時間（例えば深夜帯）定額にするサービスが提供され、急速に広まり、1990 年代後半になるとネット上のサイトも、また通信量も桁違いに増え、定額制のネット接続用の回線を提供していくことになっていった。

定額制接続専用の回線サービスとするために導入した考え方は、「ベストエフォート」という概念である。インターネットの世界では当たり前であったが、回線サービスとしてはこのころから提供を開始したもの。通信会社としては非常に革新的かつ大きな転換点となるサービスであり、インターネットへのアクセスを前提に、最大〇〇 b/s という（利用状況によって回線速度が変動する）仕様のものを開発・提供した。

はじめは ISDN の技術を使ったもので、回線速度は 64 kb/s。電話回線に比べれば回線速度が多少速くなったものの、そのメリットは定額制だという部分が大きかった。次は ADSL で、これは 1.5 Mb/s ～数十 Mb/s まで速度が出ることと、料金が比較的安価であったため、急激に普及した。しかし電話局からの距離が通信速度に関係するという方式上の問題もあった。2001 年について本命とも言える光回線のサービス（最高 100 Mb/s）を開発・提供した。これはその後、2008 年にその進化形である NGN (Next Generation Network) として高機能化し、大きな特長である帯域確保機能を活用し電話サービスや地上波デジタル再送信などにも使われるようになった。

自分が長年、開発・提供に関わったインターネットのインフラが様々な分野で広く活用されている。また、モバイルやスマートフォンなどの端末や多くのアプリケーションも数多く開発され、普及している。

今後は、このネットサービスの発展を、当科会のこれまでの歩みの蓄積・継承に、さらには会員相互を世代を超えてつなぐ手段として活用していきたいと考えている。

SNS を利用した支部活動の広報 ～その目論見と将来展望 妄想編～

中山 靖 茂 (平成4年電気卒)



昨年度より東京支部役員として参加しています、平成4年電気卒中山でございます。これまでは幽霊役員として会合後の飲み会を目当てに参加していましたが、いよいよ飲むだけでは許してくれず参加することとなりましたのでよろしく

お願いします。

さて、参加しましてまず何を求められたかと言いますと、「若い奴が入ってきて若手会員の活動が活発になるぞ！うひょひょ！」という期待感がこぼれおちそうな勢いの先輩方に対して、既に五十路が目の前の若い私が、「はて何ができるかな？」と考えました。卒業当時インターネットはまだ普及手前といった雰囲気でありniftyなどのパソコン通信がまだ全盛の時代。それから20年、巷の若い娘っ子たちは、スマートフォン片手に自らのプライベートを惜しげもなく不特定多数の魑魅魍魎が徘徊するネットの海にさらしている状況。場所は変われどわが母校の岩手大学の学生さん達も巷の娘っ子たちと利用しているツールはさほど変わらんのでは？ということで、今さら感は強いもののSNSとやらで支部活動を面白おかしく広報して学生の取り込みもできるかなと提案しました。

しかし、SNSで支部活動を広報しても、既に利用されている東京支部のホームページと何が違うの？という諸先輩たちの疑問に押しつぶされそうになります。当時のホームページの情報量は、それこそ半端のない岩手大学関連の情報であふれており、新参加者が太刀打ちできる代物ではありません。ただ、ホームページ自体のリニューアルも同時に事務局の加瀬さん(以降、TZ)が担当することとなり、TZと相当議論(飲み会)を重ね、ネットを利用した広報のあり方を再考し、同窓会そのものの位置づけを見直せるくらいのインパクトを持つ情報を発信するような役割を持たせられないか妄想を練ることとなりました。

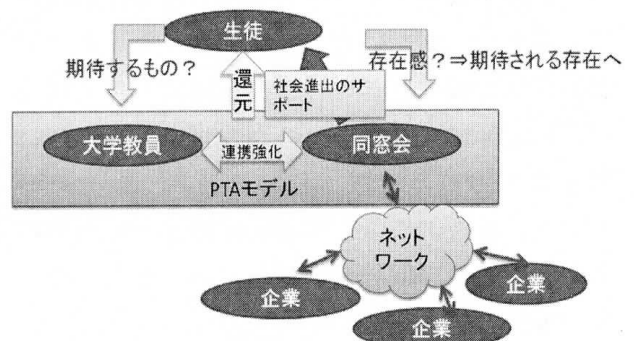
整理した課題は以下の通り。

- これまで同窓会の役割は、飲み会を企画するための幹事組織だった。

- 学科内の先輩後輩のつながりが熱い時代から、趣味を軸としたコミュニケーションに変化した。
- 同窓会に学生は何を期待しているのか？もしかしたら何も期待していない？できない？
- 未来の会員がスムーズに同窓会活動に参加できるようにするには？

はたして以上の課題に対してSNSを利用した広報が解決手段となりえるのか？とさらに妄想は続きます。議論のためにPTAをモデルとして支部活動に当てはめてみます。PTAは親と教員が学びあうことでその成果を児童・生徒に還元する場であります。では同窓会を親と位置づけ大学と学びあって今の学生たちに何が還元できるのでしょうか？彼らが必要としているものは何でしょうか？同窓会が持っている武器は一体何でそれを還元できる形にできるのでしょうか？TZとの議論(飲み)は白熱していきます。結果から申しますと、同窓会の武器は人的ネットワークであります。このネットワークを貪欲に利用しない手はありません。学生たちの不安は就職に関する問題が多いのではないのでしょうか。国の報告によると、中退や早期離職を含めると学生の2人に一人は雇用への接続に失敗しています。東京支部は就職などで相談できる先輩が多数いることを広報することで卒業する前から学生とのコミュニケーションを図りつつ、彼らの興味に応える組織になるのではないかと妄想している次第です。

果たして、この妄想が実現するかどうかは支部だけではなく大学側の連携協力が絶対に必要です。様々な問題を抱えていることは承知の上、学生に向き合う同窓会という役割を新たに位置づけるくらいのドラスティックな改革を大学側に臨む次第です。



仕事を楽しもう

梁 春 青（平成 16 年情報卒）



西谷・平山先生の研究室
でご指導戴いた梁と申しま
す。母校を離れ、あつとい
う間に十年の歳月が経ちま
した。先生及び先輩方の前
でこんなお題で話すのは恐
縮ですが、仕事にどう向き

合うかの個人談をお話させていただきたいと存
じます。

人それぞれですが、就職から定年まで同じ会
社、同一職種に就く人もいますが、頻繁に会社
または職種を転じている人もいます。転職する
人もしない人も自分なりの理由があると思いま
す。私にとって、仕事は一生の付き合い、生き
ていくため、しなければならないことでもある
し、自分の生き甲斐を見つけることでもありま
す。

新卒で、最初から天職に就いた人はほほいなく、
ほんやりとした目標があり、期待と不安を
持って就職した人が殆どだと思います。私もそ
の中の一人でした。先輩方の暖かい見守りの中、
私は今の会社に入社しました。私は情報システ
ム工学を専攻していましたが、入社後、無線通
信用測定器開発チームに配属されました。無線
通信技術に関する基礎知識が全くない私にとっ
て、暗く出口の見えない長いトンネルの入口に
立った感じでした。さらに無線通信規格は全て
英語で書かれているため、これも私にとっては
一難去ってまた一難、いつこのトンネルを通り
抜けられるかが分からず、つついネガティブ
な方向に向いてしまい、苦しみながら勉強する
日々でした。

私達が開発している測定器は民需向けの無線
信用測定器です。携帯電話など通信端末の送
受信機能を検査する精密機器であり、我々の生

活に密着している携帯電話の開発から製造まで
の各工程に使われています。新しい通信方式が
次々と開発され、もともと単純な通話機能のみ
対応する PHS、GSM から、通話とデータの両
方に対応する WCDMA、さらにデータ通信の
高速化を実現した LTE 通信方式が導入され、
携帯電話も日進月歩になり、我々の生活が一層
便利になっていきます。

配属から僅か 3 ヶ月後、お客様支援のため、
私は中国に短期（1 ヶ月）派遣されました。こ
のお客様支援活動をきっかけに、仕事に対する
考え方がネガティブからポジティブに、働く意
識も変わりました。派遣中、私達の開発した測
定器がお客様にとって如何に重要なのが分か
りました。そして、私達の支援によって問題が
解決し、お客様が喜ぶ姿を見た時の達成感は言
葉では表すことができない程でした。今では、
「私の仕事は常に通信技術の最先端に立ってい
て、世の中の無線通信を支えている」というこ
とを考えると、ワクワクしてきます。

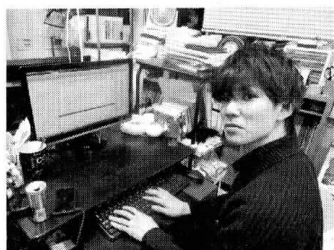
弊社製品は世界中に販売されているため、海
外出張、海外とのテレビ会議が日常茶飯事であ
り、コミュニケーションは当然英語を使用する
機会が多くあります。英語堪能の方にとっては
大したことではありませんが、私のように英語
が不得意な方は体も頭も拒否反応を示してしま
うのではないかと思います。でも少し捉え方を
変えて、「会社負担で海外旅行に行けるのだ」
というくらいの気持ちで臨めば、精神的に楽に
なると私は思い、そのように実践しています。

最後になりますが、仕事の取り組みに違う視
点で物事を考えてみると、色々な側面から仕事
を楽しむことが出来ることをお伝えして、筆を
擱きたいと思います。

－草刈賞－

第12回（平成26年度）草刈賞受賞者

電気電子工学コース 米 澤 晋 也



私が草刈賞を受賞してから1年が経とうとしています。伝統ある草刈賞をいただき、光栄に思います。私

は、新入生時にダブルダッチ同好会を設立し、3年間部長として活動してきました。私は2年生の時に、ダブルダッチの北日本大会にて準優勝という成果を収めました。また地域貢献活動も積極的に参加し、震災の影響により、被災した地域を盛り上げる活動として各地でパフォーマンスを行いました。遠野市や盛岡市にて、

いっぽいっぽの会という障害者児童を支援する団体と協力し、地域の子供たちに運動を楽しんでもらえるようなイベントの企画を行いました。また、盛岡市内では上田での夏祭りや、材木町での催しとして、地域貢献活動を行いました。

私は岩手大学大学院に進学し、専門分野について勉強を続けております。後輩の皆さんには、学生時代にしかできないことや、自分のやりたいことを積極的に挑戦し、色々な経験を積んでほしいと思っています。

最後に、大学生活を支えてくださった家族、先生、先輩、後輩、友人へ感謝し今後の生活を送りたいと思います。

◆推薦理由◆

米澤真也君は、新入生時にダブルダッチ同好会を設立し、3年間部長として活動してきました。ダブルダッチ同好会は、総勢20人ほどで、通常の活動の主なものは、夏と冬、年2回行われるダブルダッチの全国のパフォーマンス大会であり、米澤君が2年生の時には、北日本大会にて準優勝という成果を収めました。

地域貢献活動にも積極的に参加し、震災の影響により、被災した地域を盛り上げる活動として各地でパフォーマンスを行いました。遠野市や盛岡市にて、いっぽいっぽの会という障害者児童を支援する団体と協力し、地域の子供たちに運動を楽しんでもらえるようなイベントの企画を行いました。また、盛岡市内では上田での夏祭りや、材木町商店街を盛り上げる目的の「よ市」という催しにて、活動を行いました。

米澤君が部長のときに、ダブルダッチ同好会の公式ツイッターとホームページを開設したことも重要な成果であり、新しい形式の表現やツールを躊躇なく取り入れていく姿勢には、見習うべき点があります。また、公式ツイッターとホームページを利用して、ボランティアやパフォーマンスの活動場所を募集し、各地の小中学校等でも活動を行っています。

上記のような活躍は、本学の学生として同級生、下級生の目標・模範となるものであると判断でき、米澤君を草刈賞候補者として推薦しました。

（注）ダブルダッチ：2本のロープを使った縄跳び。向かい合った2人のターナー（回し手）が、右手のロープと左手のロープを半周ずらして内側に回す中を、ジャンパー（跳び手）が色々な技を交えて跳ぶというもの。

草刈賞にご寄付を頂戴しました

この度昭和31年ご卒業の高田幸雄様より草刈賞充実のため、草刈賞基金に御寄附を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

平成 27 年度東京支部報告

東京支部長 田 中 健 二 (昭和 49 年電子卒)

平成 27 年度の東京支部大会は、10 月 24 日 (土) に恒例となった新宿サンパークビル本館 7 階大ホールで開催されました。

簗福寛会長および一祐会常任理事松山克胤先生のご挨拶でスタート、今野晃市先生に「3 次元計測と考古学—対局にある二つの分野をつなぐ情報技術—」という演題でご講演いただきました。また、懇親会は、「大学は今」をテーマに、松山先生に大学の近況、特に今春設立される理工学部 (岩手大学改組) の概要をお話いただきました。以下、支部大会を中心に、東京支部の様子を紹介します。

(1) 本年度は役員の改選は無く、現在の役員は以下の通りです：

支部長	田中健二 (S49卒)
副支部長	在家 宏 (S52卒)
副支部長	狩野利之 (S61卒)
副支部長	中山靖茂 (H04卒)
会計	菊地紀幸 (S61卒)
会計監査	飛世政和 (S44卒)
事務局長	山道隆男 (S62卒)
事務局	加瀬貞二 (H04卒)
事務局	遠藤慎介 (H04卒)

(2) 活動報告、今後の計画、予算の件

科会本部の今年度支出予算に、支部活性化特別費 (科会会費の納入期とリンクし、10 年に一度の支部への支給) が計上されました。また、今回、これを機に、支部の会計年度 (従来 10 月 1 日より 9 月 30 日) を本部の会計年度 (4 月 1 日から 3 月 31 日) に合わせるとともに、会計報告についても、従来の実績報告に加え、当年度の活動計画に基づく予算計画も示すことを提案し了承されました。



活動内容としては、よりオープンなホームページを目指し、ホームページリニューアルを実施するとともに、補完手段として支部 Facebook の利用を開始しました。今年度は、「母校との連携強化」、「若手支部会員とのコミュニケーション強化」を具体的目標として取り組みます。学校訪問特別費 60,000 円を活動経費として計上し了承されました。

(3) 特記事項

冒頭に述べましたように、今年は、理工学部が設立されるため、それに伴う支部規約の見直しに迫られました。

簗福会長挨拶では、科会創設期の科会の意義目的を再認識し、会員相互の親睦をより高めていきたいとお話があり、一方、一祐会に関わる科会東京支部の役割についても、再確認の動きが進行しています。

岩手大学、工学部⇒理工学部 同窓会活動の一環の中で、あらためて、電気電子情報科会東京支部としての活動を継続して、母校、会員間の絆を継続発展させていきたいと思いを新たにしました。

支部大会の締めは、恒例の逍遙歌、同袍寮歌、学生歌を皆で合唱し、再会を約してのお開きとなりましたが、参加者は、44 名で若干さみしく、支部大会の充実にも継続して取り組んでいきたいと思います。今後も引き続き、会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

• 新ホームページ URL：

<http://iueei-tokyo.main.jp/>

• 科会東京支部 Facebook へのアクセス：

<https://www.facebook.com/>

岩手大学電気電子情報科会東京支部

-1539696842952553/?ref=page_internal

※新ホームページからもアクセス可能です

科会東京支部 Facebook
アクセス用 QR コード：



平成 27 年度仙台支部報告

仙台支部長 佐々木 良 治（昭和 43 年電気卒）

平成 27 年の最初の行事である新年会は、平成 27 年 1 月 17 日（土）に開催されました。役員会で 4 月に予定している長寿者を祝う会と 6 月の総会後の講演会の段取りを決定後、新年会に入り、年始にあたり各人の抱負、地下鉄東西線の進捗状況、震災の復興状況などが話題となりました。

第 7 回長寿者を祝う会は、藤原浩氏（S33 電気）の参加により 4 月 18 日（土）に開催されました。いつものように花束と記念品の贈呈の後、ご長寿の秘訣やら学生時代の思い出などをお聞きしながらお祝いをしました。

総会は、ご来賓として旗福会長ならびに高木学科長をお迎えし、6 月 20 日（土）15 時からハーネル仙台において開催されました。平成 26 年度事業報告等および平成 27 年度事業計画について審議され、これらは原案どおり承認されました。総会に引続き高木学科長より「大学改組と電気電子・情報システム工学科のいまと未来」等についてご講演をいただきました。懇親会では、お互いの近況報告、大学改組、景気動向な

どを話題としながら和気あいあいと楽しく進められ、最後に例年のように全員が輪になり肩を組みながら同胞寮歌を唱和しました。

仙台市地下鉄東西線荒井車輛基地の施設見学会は、7 月 25 日（土）に行なわれました。高温と蒸し暑さのため参加者が少ないのではないかと心配しましたが、電車好きの方、親子で参加の方でにぎやかになりました。田代氏（S55 電気）の案内で、まず東西線の概要と工事進捗状況の説明を受け、その後ヘルメットをかぶり見学を開始しました。事務所の屋上から基地全体の状況や津波による被害のあった海岸方向および南方に見える災害復興住宅について説明を受けました。次に地上において車輛の外観やインテリアならびにリニアモーターカー点検用の諸機械について見学をしました。子供さんたちの歓声と親子で記念写真をとる姿など楽しそうな笑顔を見ることができました。なお、地下鉄東西線は予定通り 12 月 6 日に開業しました。その概要は「きたかみ 61 号」で紹介しています。



地下鉄荒井車輛基地見学会

平成 27 年度盛岡支部報告

盛岡支部長 久保田 賢 二 (昭和 42 年電気卒)

支部総会は本部の総会と同日・同一会場 (平成 27 年 6 月 28 日岩手県民会館 4 F 第 2 会議室) で本部総会直前の午後 2 時半～3 時に行いました。

支部主催としての平成 28 年岩手大学電気電子情報科会新年会は次の通り行われました。

日 時：平成 28 年 1 月 30 日 (土)
午後 3 時 15 分～5 時 30 分

会 場：岩手県公会堂 21 号室

会 費：4000 円

参加者：30 名

開会に先立ち、1 月 6 日にご逝去された本会顧問として長らくお世話頂きました佐藤淳先生に出席者全員で 1 分間黙祷を捧げてご冥福をお祈りし、その後新年会に入りました。

新年会では先ず旗福寛会長からご挨拶を頂きました。会長からは「昨年は戦後 70 年の年であり、大戦には多くの先輩会員も出征され、亡くなられた方も沢山居た。先程の黙祷ではそれらの想いも込めた。今回の会誌には太田圭一氏 (S24 年卒) に戦前・戦中・戦後の体験についての寄稿をお願いした。若い会員各位にも是非一読頂きたい。来年 1 月 1 日は本会創立 75 周年に当たる。70 周年記念祝賀会実行委員長寺

井正行氏の提言を受けて本年 6 月 18 日の総会では 70 周年以降に該当者となられた功労者の方々を表彰したい」旨の話がありました。

次いで乾杯に移りました。ご発声は岩手県の工業教育に長年多大の貢献をされて来られた昭和 24 年ご卒業の太田圭一先生にお願いしました。太田先生は山口県防府にあった海軍兵学校で終戦を迎えられたそうで、当時を回想されて簡潔にお話下さった後、力強いお声でご発声下さり、皆で唱和しました。歓談を挟んで東京支部長田中健二氏、仙台支部長佐々木良治氏にご挨拶を頂いた後、アイシン・コムクルーズ(株)盛岡開発センターとして昨年 6 月に赴任された久米正行氏 (S57 電気卒)、昨年正会員となり現在修士課程大学院生として研鑽を積んでいる尾形優樹君、同田中大貴君、そして社会人で昨年博士課程を修了して公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センターにご勤務の高橋修三氏に自己紹介とご挨拶を、また相談役山崎時男氏 (S24 卒) から戦中戦後のご体験を踏まえた貴重なスピーチを頂きました。宴たけなわでしたが予定通り 5 時、誰もが元気の出るような鳥谷部達雄副会長のご発声のもと三本締めで中締め、5 時半に散会しました。



平成 27 年度岩手大学電気電子情報科会総会

平成 27 年度岩手大学電気電子情報科会総会は、会場の関係で例年より 2 週間ほど遅い開催となりました。

6 月 28 日（日）に岩手県民会館第 2 会議室で学科長・電気電子工学コース長高木浩一教授、情報システム工学コース長今野晃市教授、総会特別講演講師成田晋也教授のご臨席を賜り、長田理事の司会進行で開会しました。

第 1 号議案・第 2 号議案について事務局から説明がなされ、質疑応答後、特に異議なく承認されました。

第 3 号議案・第 4 号議案についても事務局から詳細な説明があり、特に異議なく承認されました。今年度だけの予算として、支部活性化特別費が計上、承認されました。支部活動のより一層の活性化と、同時に年会費納入率向上も期待されます。

第 5 号議案は、大学改組で理工学部が設置されることに伴い、会則の改定について事務局から説明がありました。質疑応答の後に、改定は「理工学部設置の日から」という条件で承認されました。

第 6 号議案の理事推薦については、一祐会副会長でもある佐藤匡氏について、簗福会長の説明で異議なく承認されました。

総会後は、「国際リニアコライダーの概要」と題して、電気電子工学コース成田晋也教授に講演をしていただきました。まさに時宜を得たテーマで、出席者は興味深く真剣に聞き入りました。

その後は懇親会に移り、県民会館内のファミリーレストラン「くらぼっこ」で鳥谷部副会長の進行で和気あいあい、楽しい時間をすごしました。



平成27年度 岩手大学電気電子情報科会総会

平成27年6月28日 盛岡 岩手県民会館

平成 27 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日時：平成 27 年 6 月 28 日（日）

15：00～15：55

場所：岩手県民会館 4F 第 2 会議室

議長：久保田賢二 氏

（理事・盛岡支部長、電 S42 卒）

書記：立花龍一 氏（理事 情 S61 卒）

木村彰男 氏（理事・事務局、情 H 3 卒）

・第 1 号、第 2 号議案について

事務局より、平成 26 年度事業 4 件（きたかみ 61 号発行、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動）および平成 26 年度決算について報告が行われ、続いて及川会計監査より監査報告が行われた。その後の質疑応答において、佐藤匡氏から「科会本部としてホームページ整備等の事業を正式に検討してみてはどうか？」との提案があり、事務局から「これまでは人的・金銭的な要因により事業としては取り扱ってこなかったが、今後、議論を始める」との回答がなされた。

その他は特に異議なく、承認された。

・第 3 号、第 4 号議案について

はじめに、平成 27 年度事業計画案（きたか

み 62 号発行、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動）について説明があり、続いて、これら事業計画を勘案した平成 27 年度の予算案について詳細説明が行われた。

特に異議なく、承認された。

・第 5 号議案について

大学改組に伴う科会会則の改定（関連学科名等の変更）について、事務局より説明があった。佐藤匡氏より、「会則の修正を考える際に一祐会や同窓会連合とのすり合わせを考えなくてよいのか？」との質問があり、会長より「電気電子情報科会は一祐会の下部組織という位置付けではなく互いに独立した組織であり、今回も特にすり合わせのようなことは行っていないが、今後も様子を見守りつつ事を進めていきたい」旨の回答がなされた。

大学側の改組はまだ未確定であるため、今回の改定については『理工学部が設置された日から』という条件付きで承認された。

・第 6 号議案について

会長より、佐藤匡氏の理事就任に関する推薦があり、意義なく、承認された。



平成 27 年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(平成 28 年 1 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)	役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)
会 長	簀 福 寛	S 38 (気 11)	東京支部		
副 会 長	千 葉 則 茂	50 (気 23)	幹 事	松 本 洋 一	S 40 (気 13)
副 会 長	鳥谷部 達 雄	56 (情 3)	幹 事	薄 衣 文 雄	41 (気 14)
副会長・事務局	柳 橋 好 子	45 (子 1)	幹 事	岡 山 茂 久	45 (電 18)
理 事	小野寺 瑞 穂	29 (気 2)	幹 事	小 磯 巖 男	51 (気 24)
理 事	佐 藤 匡	40 (気 13)	幹 事	畠 山 主	54 (情 1)
理 事	吉 田 英 夫	41 (気 14)	幹 事	吉 澤 和 弘	54 (情 1)
理 事	武 田 寿 郎	41 (気 14)	幹 事	畠 山 寧	59 (子 15)
理 事	宮 手 敏 雄	44 (気 17)	幹 事	山 道 隆 男	62 (気 35)
理 事	立 花 龍 一	61 (情 8)	幹 事	中 山 靖 茂	H 4 (気 40)
理事・盛岡支部長	久保田 賢 二	42 (気 15)	幹 事	遠 藤 慎 介	H 4 (子 23)
理事・仙台支部長	佐々木 良 治	43 (気 16)	盛岡支部		
理事・東京支部長	田 中 健 二	49 (子 5)	幹 事	岡 英 夫	48 (子院 4)
理 事・事務局	長 田 洋	62 (気 35)	幹 事	池 内 達	50 (子 6)
理 事・事務局	木 村 彰 男	H 3 (情 13)	幹 事	佐 藤 信	57 (子 13)
会 計 監 査	及 川 二千朗	38 (気 11)	幹 事	佐 藤 文 昭	59 (子 15)
会 計 監 査	大 坊 真 洋	H11 (電情博)	幹 事	泉 澤 栄	60 (子 16)
顧 問	佐 藤 淳	特	幹 事	高 橋 康 浩	62 (気 35)
顧 問	志 田 純 一	特	幹 事	佐々木 眞 嗣	62 (子 18)
顧 問	佐々木 經 夫	特	幹 事	伊 東 寿 勝	H 1 (気 37)
顧 問	藤 原 民 也	特	仙台支部		
相談役 (元会長)	阿 部 源 祐	16 (専 1)	幹 事	千 葉 浩 克	40 (気 13)
相談役 (元会長)	阿 部 長 一	19 (専 4)	幹 事	菅 原 利 一	55 (気 28)
相談役 (元会長)	山 崎 時 男	24 (専 8)	幹 事	田 代 良 二	55 (気 28)
相談役 (元会長)	太田原 功	30 (気 3)	幹 事	佐 藤 雄一郎	H 3 (気 39)
相談役 (元会長)	佐々木 喜八郎	28 (気 1)	幹 事	柏 葉 安 宏	H 9 (電電 2)
相談役 (元会長)	柏 葉 安兵衛	38 (気 11)			

美しい国日本

伊 藤 稜 威 (昭和 40 年電気卒)



「きたかみ 60 号」に世界一周旅行記「地球は丸かった」を掲載して頂き有難うございました。

62 号には国内旅行の魅力について寄稿させていただきます。「美しい国日本」は安倍総理の合言葉ですが特に空から見た日本には格

別に美しい光景があります。山々では富士山の雄姿と北アルプス（御岳～乗鞍～穂高～槍）はみごとです。北海道の利尻岳も絶景です。海では沖縄の珊瑚礁が醸し出すエメラルドグリーンや瀬戸内海の島々も感動させてくれます。

< 47 都道府県を訪ねて >

47 都道府県は旅行と出張を合わせて 100% 制覇しました。

最初は誕生した福島県～小学校修学旅行の宮城県～中学校修学旅行の東京都&神奈川県・・・

最後になったのは佐賀県、徳島県、鳥取県（2000 年：58 歳頃）

居住した府県：福島県～岩手県～大阪府～三重県～滋賀県

47 都道府県庁所在地で好きな都市：盛岡市、札幌市、福岡市・・・

盛岡市の光景：開運橋から眺める北上川と岩手山のコントラストが素晴らしいですね。

NHK の朝ドラ「どんと晴れ」：小岩井農場にある 1 本桜と岩手山は絵ハガキのように美しいです。

全国各地の温泉に浸かり地酒を呑み郷土料理に味わうのはとっても幸せなひとときです。

< 楽しい新幹線の旅 >

新幹線は昨年開業した北陸新幹線を含めて 100% 乗車しています。

1964 年開業の東海道新幹線～2015 年開業の北陸新幹線まで半世紀にわたって平均月 1 回

300 km として計算すると総計 180,000 km となり、**地球 4.5 周に相当します。**

東海道（東京～新大阪）山陽（新大阪～博多）九州（博多～鹿児島中央）東北（東京～新青森）上越（東京～新潟）北陸（東京～金沢）山形（福島～新庄）秋田（盛岡～秋田）

今年 7 月には北海道新幹線（新青森～新函館北斗）の初乗りを狙っています。

新幹線だけではなくローカル線、船、航空機の旅も多く体験しています。

< 桜前線を追って >

日本は桜の国です。近年は海外からも多くの人が桜を求めて来日します。

日本列島は南北に長い桜は 1 月下旬の沖縄から 6 月初旬の北海道まで約 5 カ月間花見が可能です。

私はほぼ毎年桜前線を追って全国を旅します。私が訪ねた主な名所は下記に示します。

沖縄（名護、本部）、九州（熊本城、福岡城址）中四国（高知城、松山城、平和公園）近畿（紀三井寺、姫路城、吉野山、造幣局、哲学の道、海津大崎）中部（河津桜、金沢兼六園、高遠城址、岐阜淡墨桜）関東（上野公園、墨田河畔、北の丸公園）東北（三春滝桜、角館、北上展勝地、弘前城）北海道（五稜郭、北海道神宮、静内二十間道路）その他多数訪ねました。写真は三春滝桜：2014 年撮影



私見ですが最高に美しかったのは「弘前城」です。次は「金沢兼六園」です。

*海外ではオーストラリア、ニュージーランドの桜を観ました。南半球は日本と季節が逆ですので秋に桜が満開になります。今年4月初旬にはワシントンのポトマック河畔の桜観賞を企画しました。

<離島を訪ねて>

離島の魅力は自然の美しさと人情の厚さです。ただし過疎化が激しく将来が見通せない厳しさがあるようです。訪ねた離島は以下の通りです。

沖縄（沖縄本島、石垣島、西表島、竹富島）
鹿児島（奄美大島、屋久島、種子島、桜島）
長崎（対馬、五島列島）
香川（小豆島、与島）
兵庫（淡路島、家島）
島根（隠岐）
三重（答志島）
東京（伊豆大島）
新潟（佐渡）
北海道（利尻島、礼文島）
今年7月には奥尻島に渡る予定です。

*琵琶湖には島が3つあり（沖島、多景島、竹生島）
沖島は湖にある日本唯一の有人島でおよそ100戸、350人の人が住んでいて小学校、郵便局があります。

漁業が主な産業ですが、最近過疎化防止のため湖では日本初の離島振興法が適用されました。

竹生島は西国30札所宝厳寺があって観光名所です。

<スポーツ観戦>

私の旅行の楽しみの一つはスポーツ観戦です。

・プロ野球の本拠地12球場は全て行って試合の観戦をしています。

（札幌D、宮城、東京D、西武D、神宮、千葉、横浜、名古屋D、大阪D、甲子園、広島、福岡D）

*大リーグはロサンゼルスでドジャースの試合を観ています。野茂英雄投手が全盛時でこの試合は完投勝ち、日本人初ホームランを打ちました。

大学野球は早慶戦を観に神宮球場に行き、高校野球は甲子園に何度も足を運んでいます。

21世紀枠出場の安積（私の母校）彦根東（長男の母校）の試合はアルプススタンドで応援しました。

・中央競馬は全国10競馬場に全て行ってレースを観ていますが馬券の配当は赤字です。

（札幌、函館、福島、新潟、東京、中山、中京、京都、阪神、小倉）

テンポイントの骨折事故のときには現場にいました（小生の投稿記事は毎日新聞に掲載されました）

・大相撲4か所（東京、名古屋、大阪、福岡）で1965年の大鵬から2015年白鵬まで観ています。

<わが母校>

・福島県立安積高校は旧制福島尋常中学校で福島県随一の歴史と伝統を誇っています。

郡山市にあり、われわれが学んだ旧本館は国の重要文化財で安積歴史博物館として一般に公開されています。（岩手大学でいえば農学部旧講堂現在の農業教育資料館に相当します）

・私が好きな自然環境の良い大学は北海道大学、岩手大学、帯広畜産大学の3校です。キャンパスが牧歌的で植物園や牧場があって今でも牛、馬、羊などが放牧されています。

わが工学部は本年から理工学部に変え、電気電子&情報学科も再編されています。

また、工学部玄間には恩師「草刈遜先生の胸像」が建立されており、電気系学科卒業生の誇りです。

・昨年8月6日～8日電気工学科昭和40年卒（卒業50周年記念）同期会が岩手県内で開催され、8月7日には幹事（佐藤匡君）の発案で母校構内散策（小生がガイド役）が行われ感無量でした。

昼食会には恩師（太田原先生、簗福先生）にご出席いただき旧交を深めることができました。

・個人的には小生の妻の実家が農学部のごく近くだったので岩手大学を訪ねる機会が多くあります。

妻の4姉妹は農学部の構内を自宅の庭のようにして遊んでいたそうです。牛、馬、羊などの動物たちと遊んで成長したようです。私達夫婦は今年4月には金婚式を迎えます。

仕事上では学生のリクルートで工学部の研究室を何回も訪ねたこともあります。

70 年前の思い出と いま思うこと

太 田 圭 一（昭和 24 年工専 8 回卒）



盛岡高等工業学校（後の盛岡工専、現岩手大学工学部）の設置が公布されたのは昭和 14 年（1939 年）5 月 22 日で、第 1 回入学式が 7 月 10 日に行われた。7 月から 9 月にかけて上田校地

の整地作業が市民の勤労奉仕で進められたが、当時小学生だった私も親に連れられて参加した記憶がある。後年その学校に入学することになろうとは考えてもみなかった。開校した当時の日本は昭和 12 年 7 月 7 日に勃発した日華事変が全面的な日中戦争に拡大し中国各地で戦争状態になり、昭和 14 年 9 月 1 日にヨーロッパで第二次世界大戦が始まった。日本はその後も戦争を拡大する方向に進み、ついに昭和 16 年 12 月 8 日のハワイ攻撃で太平洋戦争に突入する。

私は翌年旧制中学に入学した。世の中は戦時色一色で中学生もゲートルを巻き木銃を担いで登校した。2 年生まではなんとか真面の授業を受けられたが、3 年生になると勤労働員に馳り出され上級生は神奈川県平塚の工場に、私達は 6 月から 11 月まで松尾鉱山で褐鉄鉱の露天掘りをやらされた。なんのことはない角スコップと鶴嘴を使った土方仕事で一日のノルマが 1 屯だった。松尾でよかったのは土方並みに一日 5 合の飯が食べられたことだろう。その頃から学校でも配属将校などから少年飛行兵や予科練などへの志願を勧める動きが盛んになり、同級生が何人も志願して予科練などに行った。丁度その頃海軍兵学校で一年早く募集する制度ができ受験したら幸い合格できたので、昭和 20 年 3 月末に入校することになった。

3 月 23 日夕刻、駅頭で壮行会をしてもらい級友 2 人と出発。翌朝上野に着いたが、そこで見たのは前年暮受験の帰りに寄った時の街の様子はなくただ一面の焼け野原だった。そして東京駅で乗ろうとした列車は、3 月 10 日の大空襲以来連日の空襲から避難する人達と荷物で超満車の状況でとても乗れそうになかったが、偶然陸軍の将校の一団が乗り込む後について何とか車内に入れた。乗車はしたものの通路に新聞紙を敷いて座れたのがやっとで、座席に座れたのは岩国を過ぎてからだ。途中空襲警報が出るたび停車を繰り返しながら列車は西へ西へと進み 3 日目の午後広島を通過した。小春日和の麗らかな日差しに包まれた広島の街は落着いたたたずまいでとても美しかった。灰色がかった中国山脈を背景に眼下には紺碧の広島湾が拡がり、のどかな光景に思わず「こんな街で暮せたら幸せだろうな」と思いながら見入っていた。盛岡を発って 4 日目の朝やっと九州に到着、久留米の知人宅で 2 日間休んで 28 日、今のハウステンボスの所にあった学校に入校した。

海軍での生活は国語、数学などの普通教科と体育、教練などの学習の毎日で英語の授業は日本語を一切使わないで行われた。朝の総員起しのラッパで始まり、効率よく無駄のない日課と 5 分前の精神に基づく進行で規則正しい一日が過ぎ、夜の自習時間が終って“至誠に悖るなかりしか”に始まる五省を唱えて一日を反省する充実した日々であった。振り返って私の人生の中で、この時の生活が最も充実して輝いていたと思う。短い期間であったが、兵学校生徒であったことが私のバックボーンになっている。

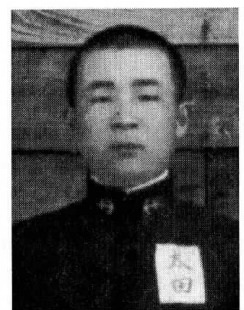
7 月初め山口県防府に移動した。米軍上陸に

備えての移動で、この頃になると連日艦載機の攻撃を受け校舎を焼かれたりした。8月15日の敗戦はここで迎えた。2、3日前から敵機の襲来がパタッと止み無気味さを感じていた。玉音放送があるというので一同校庭に集まり放送を聞いたが、雑音が多く陛下が何を云われたか誰も判らなかった。教頭の本村昌福少将(当時)が「戦争を勝ち抜くため一層努力せよ」とのお言葉であると訓示して散会した。本村少将は奇跡と云われたキスカ島守備隊全員の無血撤退を成功させた指揮官である。翌日改めて敗戦を知らされ、ただ呆然とするばかりだった。国の為、家族のため死ぬ覚悟で選んだ道が突然閉ざされ生きる目的を失った私達は23日、無蓋貨車で復員した。広島に停車したのは真夜中だったが、小雨に煙る駅のホームから見えたのは深い幽闇の拡がりだった。しじまの闇のあちこちで青白い光がちらちら揺らぐのが見えたが、何の光かその時は判らなかった。その時見た光景を今でも忘れることができない。後に同期で作家になった早坂暁が、あの時闇の中で揺れていた光は、原爆で亡くなった人達の死体から出た燐が燃えていたのだと書いたのを読んで愕然とした。8月6日が来ると広島で見た青白い光が燃えていた深い闇を思い出し、亡くなった人達のご冥福を祈って黙祷を捧げる。焼失した国土を見て“国破れて山河在り”の思いを深くしながら盛岡の土を踏んだのは26日だった。

昨年は戦後70年ということで太平洋戦争に関する本が多数出版されたが、私は8月15日を迎えると終戦があと1、2ヶ月も遅れていたらどうなっていたか想像するとゾッとする。多分生きてはいなかったろうし、日本の国もなくなっていたかも知れない。鈴木貫太郎総理が昭和天皇のご聖断を仰ぐという形で戦争を終らせたが、それを支えたのは米内海軍大臣だった。米内さんが戦争終結に尽された功績は大きく、

私達は忘れてはならないと思う。米内さんとは岩手が生んだ3人目の総理大臣になった米内光政海軍大将のことである。私は米内さんのお話を聞いたことがある。昭和19年4月15日、米内さんは母校盛岡中学(現盛岡一高)で講演された。私の記憶では「学生だから学業に励みなさい」という内容の極めて短い話だったとしか覚えていない。級友に確めたが皆勉強しろという話だったと云う。新聞には7分間語ったと載ったそうだから、いかに短い話だったか判るだろう。もっとも米内さんは話が短いことで有名だった。私は生徒達がお顔をよく見ようとして、騒然となる中を悠然として戻った米内さんの偉丈夫姿が目につく。海軍に進んだのはそんな大先輩に憧れたからかも知れない。

幸い中学に復学でき、翌年盛岡工専電気科に入学した。教科書も学用品も満足になく毎日腹を空かした学生生活だったが、私の新しい生きがい探しが始まった。卒業後は教員になり40年勤めた。敗戦の時、日本の将来のため何ができるか真剣に論じ合った。教育で次の世代に伝えようという気持が強かった。その想いを果たせて良かったと思っている。軍国少年が民主主義を理解し新しい生き方を探すことは容易でなかったが、試行錯誤を繰り返し悩みながら何とか生き長らえて70年、今年は米寿を迎える。丈夫な体を残してくれた親に感謝すると共に、あの戦争で亡くなられた多くの同胞の犠牲のお蔭であるといつも思う。平和で豊かな日々を過せることを感謝しながら、そのためには二度と戦争をしない、自由に物が云える国であることの大切さをこれからも訴えていきたいと思っている。



海軍兵学校入学時
第一種軍装着用
しての撮影

平成 27 年度電気電子・情報システム工学科の構成員名簿

平成 28 年 1 月 1 日現在

電気電子工学コース (コース長 高木浩一 教授)			情報システム工学コース (コース長 今野晃市 教授)		
分野	職 名	氏 名	分野	職 名	氏 名
電子デバイス工学	教授	芽郎 治彬 司	コンピュータ・ネットワーク工学	教授	昭人 史司 信太 久
	助教	数宏 政榮 健真		助教	泰正 仁貴 豊克
電子システム工学	准助	西小 向叶 三 田野崎	知能情報処理システム工学	准助	西安 永平 佐藤 山
	助教	館林 川 浦		助教	谷倍 田山 藤岡 中
電気エネルギー工学	准助	恒長 大本 佐	メディアシステム工学	准助	西萩 三吉 木金 盧
	助教	川田 坊間 藤		助教	山原 輪森 村
		佳 真 尚 宏			清裕 二久 男海 忻
		隆洋 洋樹 明			義讓 彰 天
		一也 裕 幸			茂市 博司 也胤 かる
		浩晋 雅 克			則晃 忠直 卓克 ひか
		木田 山 橋			葉野 本谷 石山 田
		高成 秋 高			千今 藤中 明松 懸

技 術 部					
工学系技術部	職 名	氏 名	情報技術部	職 名	氏 名
	技術室長	千葉 茂 樹		技術室長	栗田 宏 明
	技術専門員	太田 康 治		技術専門員	金野 哲 士
	技術専門員	那須 川 徳 博		技術専門員	田 頭
	技術専門員	萩原 由 香 里			
	技術専門員	千原 葉 寿			
	技術専門員	庄司 こ ぜ え			
	技術専門員	志田 寛 沙			
	技術職員	平山 有 正			
	技術職員	佐藤 静 明			
	技術職員(再雇用)	多田 香 明			
		石 川 利			

平成 27 年 年表

1/17-18	大学入試センター試験
1/19	「きたかみ」編集委員会、理事会・新年会打合せ、会費検討委員会 旗福会長・鳥谷部副会長・久保田盛岡支部長・柏葉相談役・事務局 3 人 岩手大学工学部
1/23	電気電子工学特別研修 「横河電子機器㈱のものづくり ～岩手発、世界へ～」伊東寿勝氏（横河電子機器盛岡事業所盛岡技術部長）
1/26	「きたかみ」第 2 回編集委員会、理事会・新年会打合せ 旗福会長・久保田盛岡支部長・柏葉相談役・事務局 3 人 岩手大学工学部
1/27-28	平成 27 年度大学院博士前期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 27 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻 7 名合格（私費外国人留学生、社会人特別選抜は志願者なし）
1/29	平成 27 年度大学院博士後期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 27 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻 3 名合格（うち、社会人特別選抜 1 名）
1/30	故堺茂樹元学長大学葬
1/31	平成 26 年度第 3 回理事会 16 人 岩手県公会堂 12 号室
1/31	盛岡支部主催科会新年会 岩手県公会堂 21 号室
2/2	草刈賞選考委員会 岩手大学工学部 選考委員 電気電子工学科：高木浩一（電気電子工学コース長）・西館数芽（4 年生担任） 情報システム工学科：安倍正人（情報システム工学コース長）・吉森久（4 年生担任） 電気電子情報科会：旗福寛（会長）・太田原功（相談役・選考委員長）
2/4	入学願書受付締切。電気電子・情報システム工学科：前期 2.0 倍、後期 6.3 倍
2/4	電気電子工学特別研修 「車載向け組込みソフトウェア開発の魅力と工夫」加藤 誠氏（アイシン・コムクルーズ盛岡開発センター）
2/6	電気電子工学特別研修 「燃料電池自動車に関する最新動向」三好新二氏（日本自動車部品総合研究所）
2/9	「きたかみ」第 3 回編集委員会 校正その他 会長・久保田盛岡支部長・柏葉相談役・事務局 3 人 岩手大学工学部
2/19	弔電 和田守之助氏（昭和 25 年卒専門 9 回）
2/19	「きたかみ」61 号校了
2/23	第 24 回「コミュニケーションデザインセミナー」 《岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催》 招待講演「MIMO 伝送のための伝搬基礎と容量式の解釈について」西森健太郎氏（新潟大学工学部情報工学科准教授）
2/18	電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）博士論文公聴会
2/19	電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）修士論文審査発表会
2/20	電気電子・情報システム工学科（情報システム工学コース）卒業研究発表会
2/25	平成 27 年度個別学力検査前期日程。電気電子・情報システム工学科 92 名合格
2/25	元学長代行西谷泰昭氏が情報システム工学コース教授として復職
3/1	「きたかみ」61 号発行 5300 部
3/9	新正会員歓迎会 86 人（新正会員・院生 66 人） 岩手大学工学部生協食堂 第 12 回草刈賞候補者 米澤真也
3/12	平成 27 年度個別学力検査後期日程。電気電子・情報システム工学科 24 名合格
3/16	第 25 回「コミュニケーションデザインセミナー」 《岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催》 招待講演「KAI OTSUCHI（カイオオツチ）の活動紹介～芸美卒業生の私が、カメラマンのアシストを経て、ITC 起業家になった話～」平館理恵子氏（IT 関連事業会社「KAI OTSUCHI（カイオオツチ）」理事長）
3/23	岩手大学卒業式・修了式 工学部第 63 回卒業生：情報システム工学科 1 名、電気電子・情報システム工学科 136 名（電電コース 77 名、情報コース 59 名） 大学院博士前期課程第 46 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻 36 名 大学院博士後期課程第 17 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻 3 名
4/1	秋山雅裕氏を電気電子工学コース准教授として採用
4/7	岩手大学入学式 工学部入学生：電気電子・情報システム工学科 131 名 3 年次編入学生：電気電子工学コース 3 名、情報システム工学コース 3 名 大学院博士前期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻 54 名 大学院博士後期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻 3 名
5/1	高橋克幸氏を電気電子工学コース助教として採用
5/16	【岩手大学総合教育研究棟（情報系）完成記念特別講演会、見学会及び祝賀会】 記念講演「『計算機の目』の技術：歴史と今後の展望」金出武雄氏（カーネギーメロン大学教授）
5/21	平成 26 年度科会会計監査 及川二千朗監事・大坊真洋監事・旗福会長・柏葉相談役・柳橋理事 岩手大学工学部

5/21-22	電気電子工学コース ソフトボール大会
5/25	会長・事務局会議 理事会提案事項について 会長・事務局 3 人・柏葉相談役・鳥谷部副会長 岩手大学工学部
5/25	平成 27 年度第 1 回会費検討委員会 鳥谷部委員長・旗福会長・事務局 3 人・柏葉相談役 岩手大学工学部
5/30	平成 27 年度第 1 回理事会 平成 27 年度総会提案事項協議、会則の改定、弔意に関する申し合わせ等 17 人 岩手県公会堂
5/下 -6/上	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成 27 年 9 月修了予定者》および中間発表会《平成 28 年 3 月修了予定者》(分野別に実施)
6/1	開学記念日
6/8-12	岩手大学工学部授業一般公開
6/20	仙台支部総会 ハーネル仙台
6/25-26	平成 28 年度一般編入学者選抜試験 電気電子工学コース 6 名合格、情報システム工学コース 7 名合格
6/28	平成 27 年度岩手大学電気電子情報科会総会 28 人 岩手県民会館 第 2 会議室 平成 26 年度事業報告・決算報告、平成 27 年度事業計画・予算、会則改定、理事の推薦について 講演「国際リニアコライダーの概要」講師 成田晋也氏(電気電子コース教授)
7/8	平成 28 年度大学院博士前期課程推薦入学者選抜試験 電気電子・情報システム工学専攻 4 名合格
8/6	オープンキャンパス
8/7	情報システム工学コース スポーツ大会
8/20	会長事務局打合せ 旗福会長・柏葉相談役・立花理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学工学部
8/22	平成 27 年度第 2 回理事会 平成 27 年度事業計画について、一祐会データベースの科会年会費納入情報削除要請について 15 人 岩手県公会堂
8/27	一祐会会長との話し合い 旗福会長・佐藤理事 一祐会館 旗福会長・柏葉相談役・鳥谷部副会長・久保田盛岡支部長・立花理事・佐藤理事・事務局(長田・木村・柳橋)地域連携センター
9/1-2	平成 28 年度大学院博士前期課程入学者選抜試験《平成 28 年 4 月入学》電気電子・情報システム工学専攻 41 名合格 平成 27 年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成 27 年 10 月入学》電気電子・情報システム工学専攻 1 名合格 平成 28 年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成 28 年 4 月入学》電気電子・情報システム専攻 1 名合格
9/3	会長・事務局・関係理事相談役打合せ 一祐会データベースの科会年会費納入情報削除要請について 旗福会長・鳥谷部副会長・事務局 3 人・太田原相談役・柏葉相談役・久保田盛岡支部長・立花理事・佐藤理事 岩手大学工学部
9/4	電気電子工学科工場見学《東北地区》東京エレクトロン東北、トヨタ東日本(参加者 47 名)
9/10	一祐会会長との交渉 旗福会長・久保田盛岡支部長・佐藤理事 一祐会館
9/14-16	電気電子工学科工場見学《関東地区》アンリツ、東芝、パナソニック、ドコモ(参加者 21 名)
9/25	平成 27 年度岩手大学修了式・卒業式(農業教育資料館)
9/26	平成 27 年度臨時理事会 一祐会データベースの科会年会費納入情報削除要請について 15 人 岩手県民会館会議室
9/下 -10/上	電気電子・情報システム工学専攻(電気電子工学分野)修士論文中間審査
10/1	岩手大学入学式(平成 27 年度 10 月入学者)
10/5	「一祐会 DB に於ける科会情報の取り扱いに関する要請」を一祐会会長に提出 一祐会渡邊会長・旗福会長・柳橋一祐会会館
10/中 -3/下	明石卓也准教授が米国のカリフォルニア工科大学へ、盧忻助教がカナダのアルバータ大学へ、山中克久助教がカナダのサスカチュワン大学へそれぞれ 1～3 ヶ月の海外研修(岩手大学教員海外派遣事業)
10/17	オープンキャンパス(大学祭)
10/23	【システム理工学系講演会】 「環境デザインの視点から考える景観づくりのシステム」山内貴博氏(秋田公立美術大学准教授)
10/24	東京支部大会 新宿サンパークビル「三平」本館 旗福会長・松山一祐会常任理事 講師 今野晃市学科長
11/5	一祐会 DB 対応・第 1 回「きたかみ」編集委員会 旗福会長・柏葉相談役・鳥谷部副会長・久保田盛岡支部長・立花理事・佐藤理事・長田理事・木村理事・柳橋理事 工学部地域連携センター
11/6	電気電子工学特別研修 「経済とエネルギーの視点から“持続可能な社会”」山崎慶太氏(竹中工務店)
11/9-13	岩手大学工学部授業一般公開
11/20	電気電子工学特別研修 「車載向け組込みソフトウェア開発の魅力と工夫」加藤 誠氏(アイシン・コムクルーズ盛岡開発センター)
11/下 -12/上	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成 28 年 3 月修了予定者》および中間発表会《平成 28 年 9 月修了予定者》(分野別に実施)
12/4	【システム理工学系講演会】 「誤り訂正符号化の基礎と最近の動向」渋谷智治氏(上智大学教授)
12/7	電気電子・情報システム工学専攻(電気電子工学分野) M1 中間発表会
12/9	創立 75 周年第 1 回準備委員会・「きたかみ」第 2 回編集委員会 旗福会長・柏葉相談役・鳥谷部副会長・久保田盛岡支部長・木村理事・柳橋理事 工学部地域連携センター
12/11	電気電子工学特別研修 「燃料電池自動車に関する最新動向」三好新二氏(日本自動車部品総合研究所)
12/19	平成 27 年度情報処理学会東北支部研究会開催
12/18	電気電子工学特別研修 「自動社産業におけるミクニの取組と電気系出身者の役割」福井克彦氏、吉田 壘氏、井上 悟氏(ミクニ)
12/25	弔電 佐藤直司氏(電気昭和 32 年卒)

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース(以下、電気情報系コースという)及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻の傘下集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。
- 第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認めた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名 | 正会員より選出する。 |
| 幹 事 | | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。 |
| 顧 問 | 若干名 | 特別会員より会長がこれを委嘱する。 |
| 相談役 | | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。 |
- 第17条 各役員任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。
- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。
- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行なう。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

付 則

本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。

(昭和17年1月1日制定)

(昭和25年度総会一部改正)

(昭和37年度総会一部改正)

(昭和40年度総会一部改正)

(昭和41年度総会一部改正)

(昭和46年度総会一部改正)

(昭和50年度総会一部改正)

(昭和51年度総会一部改正)

(昭和56年度総会一部改正)

(平成4年度総会一部改正)

(平成11年度総会一部改正)

(平成12年度総会一部改正)

(平成15年度総会一部改正)

(平成20年度総会一部改正)

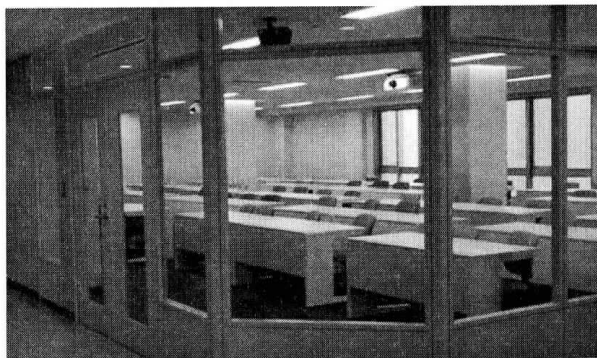
(平成21年度総会一部改定)

(平成22年度総会一部改定)

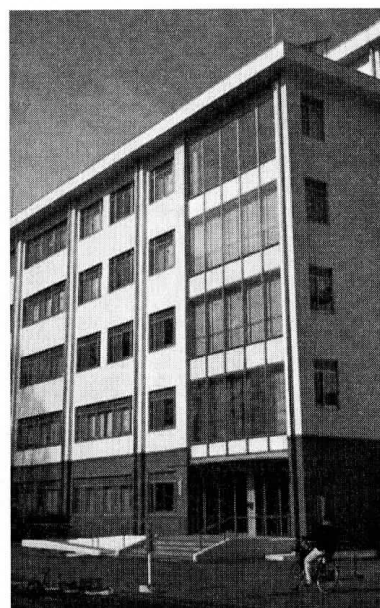
(平成27年度総会一部改定) 理工学部設置の日から適用。

「きたかみ」62号トピックス

改修された情報棟

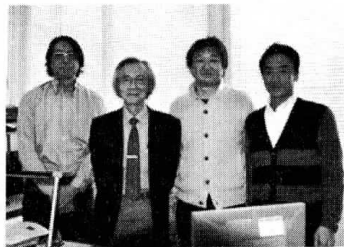
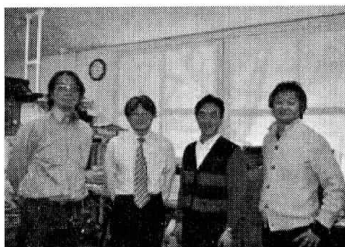
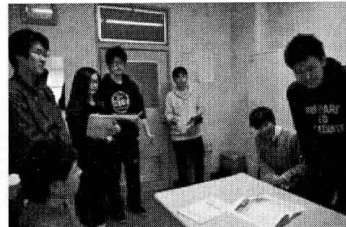
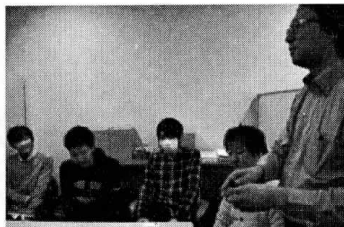
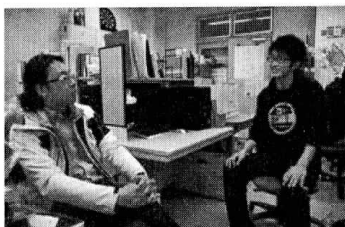


ICT プログラミング演習室
(平成 28 年 4 月から PC 端末が設置されます)



総合教育研究棟(情報系)の外観(旧 4 号館東棟)

東京支部若手幹部 科会活動活性化のために大学訪問



編集後記

暖冬の盛岡です。小岩井農場を会場に開催された岩手雪まつりは雪不足で雪像が作られませんでした。希望郷いわて国体冬季大会が行われています。今年は岩手国体の年、盛り上がりを期待したいものです。

「きたかみ」62号をお届けします。編集を始めて間もなく、佐藤淳先生の訃報が届きました。佐藤先生の深く熱い講義を思い出される方も多いと思います。科会の顧問としても活動を温かく見守って下さいました。心からご冥福をお祈りいたします。

62号では、特別寄稿としてお二人から、毎回の担当としては東京支部から原稿を寄せていただきました。どれも読み応えのある内容です。執筆いただいたみな様に感謝申し上げます。

裏表紙でもご案内のとおり、28年度の総会時に創立 75 周年の記念式典を行います。この機会に同期会などを企画してみな様お誘い合わせのうえ、記念式典・総会・祝賀会にぜひご参加下さい。お待ちしております。

編集委員 旗福 寛 (会長: 昭和 38 年電気卒)
柏葉安兵衛 (相談役: 昭和 38 年電気卒)
久保田賢二 (盛岡支部長: 昭和 42 年電気卒)
田中 健二 (東京支部長: 昭和 49 年電子卒)
長田 洋 (事務局: 昭和 62 年電気卒)
木村 彰男 (事務局: 平成 3 年情報卒)
柳橋 好子 (事務局: 昭和 45 年電子卒)

きたかみ 第62号

発行日 平成 28 年 3 月 1 日
発行者 盛岡市上田 4 丁目 3 番 5 号
岩手大学工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎ 019-621-6381
印刷所 株阿部謄写堂
盛岡市本町通 2 丁目 8 番 37 号
☎ 019-623-2361

創立 75 周年並びに平成 28 年度総会のご案内

平成 29 年 1 月 1 日で岩手大学電気電子情報科会は創立 75 周年を迎えます。つきましては創立 75 周年記念式典と平成 28 年度総会を下記のように開催することになりましたのでご案内申し上げます。75 周年式典において 70 周年以降に該当者となられた功労者の方々を表彰いたします。なお、盛岡支部総会も併せて行います。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

なお、住所や勤務先等の確認にも使用させていただきますので、綴り込みのハガキで記念式典・祝賀会、総会への出欠を、1 ヶ月前の平成 28 年 5 月 18 日までにご連絡を頂きたいようお願い申し上げます。

記

日 時 平成 28 年 6 月 18 日 (土)

盛岡支部総会	午後 2 時 00 分～2 時 20 分
総 会	午後 2 時 20 分～3 時 20 分
記 念 式 典	午後 3 時 20 分～4 時 00 分
記 念 写 真	午後 4 時 00 分～4 時 30 分
祝 賀 会	午後 4 時 30 分～6 時 30 分

場 所 岩手県公会堂 記念式典・総会 26 号室 祝賀会 21 号室
盛岡市内丸 11 番 2 号
TEL 019-623-4681

記 念 式 典 草刈特別功労賞表彰
草刈功労賞表彰

総 会 議 題 1. 平成 27 年度事業報告、決算報告承認
2. 平成 28 年度事業計画案、予算案審議
3. その他

祝賀会会費 5,000 円 (席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)

連 絡 先 記念式典・祝賀会・総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴り込み
のハガキを使用するか、下記事務局宛電話、FAX 又は E-mail 等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会事務局 (岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科内)

電気電子工学科担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381
E-mail osada@iwate-u.ac.jp

情報システム工学科担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488
E-mail kimura@cis.iwate-u.ac.jp

庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253
E-mail t.k-yngbs@nifty.com